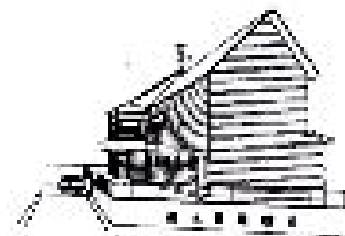


<今朝の聖書から> 『ローマ人への手紙』13:8
 に“互に愛し合うことの外は、何人にも借りがあってはならない。人を愛する者は、律法を全うするのである”という御言葉があります。何故クリスマスがなければならなかったのか、思いめぐらせると、この言葉に巡り合います。“わたしは使いをあなたの先につかわし、あなたの道を整えさせるであろう”と預言書の言葉が2節で述べられていますが、それほどまでに、人々の道は、神様からの道でなければ整えられないのに、整えられていませんでした。道を見失うと人々は正しさから離れて行きますし、先週を見ましたように、そのような中で、なおお且つ敬虔であろうと努力する人々は、人が造り出した教えに頼っていくことになってしまいました。クリスマスがやって来た頃のイスラエルも今と同じように、荒れ果て荒廃していました。この時代も何の希望もない時代でした。希望を持つことが許されなかったというべきでしょう。それでも皆は生きていかなければなりません。より優位に立つこと、“自分以外に守ってくれる人はいない”と極端に思う時、あまりにも多くの貸し借り関係を作ってしまいました。人々は正義の代わりに企みや不正を、借りたことに感謝をする代わりに、貸したことを誇り、ことさらに代償を求めるようになってしまいました。貸借関係や取引が支配している世界に“互いに愛し合うこと”と言っても、聞いてくれる人はいないかもしれません。しかしもう一度“互いに愛し合うこと”の支配する世界を聖書の世界に垣間見た時、人々は利息を取ることをやめ(申命記23:19)働く人に休養を与えないこと(出エジプト記20:10)もなくなるのです。すなわち、律法を全うし、神の愛を知ることができるのです。クリスマスはこのような回復の時だったのです。御子イエスの誕生を記念し、私たちが思い出すのは、このことであり、讃美するのもこのことです。“そこで、ユダヤ全土とエルサレムの全住民とが、彼のもとにぞくぞくと出て行って、自分の罪を告白し、ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けた”と5節にあるとおりに、このように、人々は生活に疲れ、信仰的にも求めていました。救い主を受け入れる備えが必要だったのです。さて思い出したいことなのですが、私たちはどこで主を受け入れる備えをしたのでしょうか。ことごとく良心と正義が踏みじられることだったのでしょうか。それとも虚無だったのでしょうか。ただ確かに知っていたことは、主の力を頂かなければ、願いに反して無力だったということでしょう。

週報

2009年 12月 13日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042